



水道橋畔発

Transmission from SUIDOUKYOHAN

第 15 号 平成 23 年 12 月

生まれ変わる水道橋病院

病院長 一戸達也



大学の水道橋移転事業もいよいよ本格的になってきました。10月末現在で、さいかち坂校舎（仮称）は8階まで鉄骨が組み上がり、各階の床も張られていよいよ建物らしくなってきました。工事は順調に進んでおり、来年4月には新1年生を迎え入れることとなります。新館校舎（仮称）は基礎工事の段階ですが、再来年の竣工に向けて工事が着々と進んでいます。

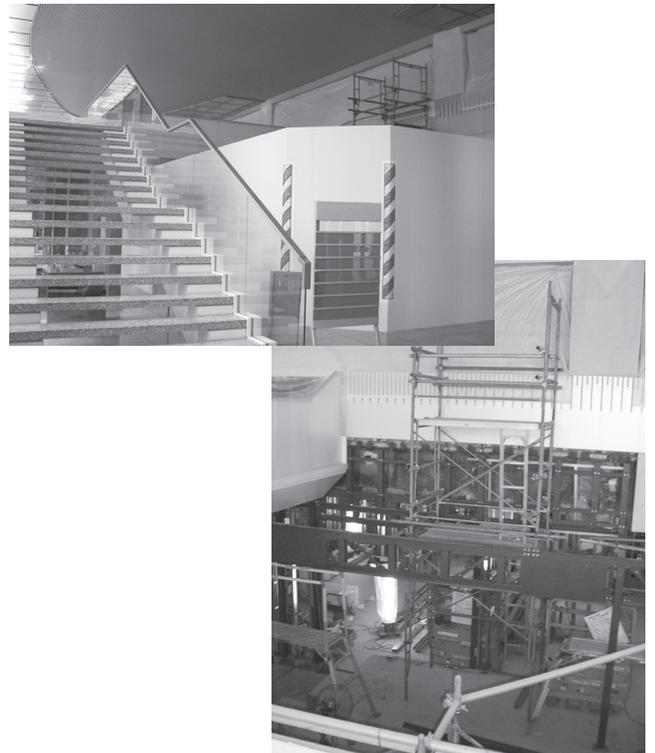
水道橋病院も改修工事が始まっています。まずは、現在3階にある病院の総合受付と医事課の移転です。来年1月から総合受付・医事課・薬局が1階に移転します。これに合わせて、医療安全管理室・地域医療連携室・患者相談室なども設置されます。また、原則として院外処方となります。新しい水道橋病院の顔として、明るい雰囲気の中でその役割を発揮してくれるものと期待しています。血協記念ホールや会議室があった2階スペースも改修が始まりました。ここには歯科用ユニット40台の大診療室の他、学生ラボ、読影室、消毒室などが設置されます。学生の臨床実習や歯科医師臨床研修を中心として、教育病院としての大学附属病院の機能を果たすことが期待されており、来年2月中旬の開設に向けて工事が順調に進んでいます。その後、3階と4階の既存の診療室や診療設備を順次改修し、再来年2月に新しい水道橋病院が完成する予定です。

水道橋病院は、現在は歯科用ユニットが73台と小規模の病院ではありますが、内科・眼科を含めて一日あたり500～600名の患者様が来院されています。新水道橋病院には119台の歯科用ユニットが設置されますので、より多くの患者様に高品質の医療を効率よく提供

できるようになると思います。また、そのように病院全体が一丸となって努力して参ります。そのために、既存の古くなった設備を順次最新鋭のものに入れ替え、患者様にご満足いただけるように準備を進めております。

工事中は騒音や振動などで、患者様に様々なご迷惑やご不快をおかけしており、加えて患者様をご紹介いただく先生方にもご心配をおかけしており、大変申し訳なく思っております。もし、患者様から水道橋病院に関するご指摘等がございましたら、どうぞご遠慮なくお知らせいただければ幸いです。できうる限りの対応をさせていただきます。

東京歯科大学水道橋病院は、わが国の最も古い伝統ある大学の、最も新しい病院に生まれ変わります。教職員一同、水道橋病院をご利用いただくすべての方にご満足いただけるように努力して参ります。今後ともよろしくお願いいたします。



東京歯科大学水道橋病院の理念「思い遣りの心に依る医療」

新任のご挨拶

口腔外科 外木守雄



本年10月1日より、市川総合病院 歯科・口腔外科より配置転換して参りました。水道橋病院の勤務は15年ぶりで、以前は、柿澤教授のもと水道橋病院の黎明期に口腔外科診療に従事させていただいておりました。千葉、水道橋、市川と本学の3病院すべてに勤務した経験

を生かし、今後の発展のために寄与したいと考えています。

私は、現在まで、口腔機能と全身との関連、特に睡眠呼吸に関する歯科の関わりを追求して参りました。実は、睡眠障害に対する先進的な医療体系が構築されている欧米では、現在、睡眠障害の根本的な予防という点で歯科が注目され始めております。この閉塞性睡眠時無呼吸症候群では、中高年になって、息が止まるような習慣が付くとなかなか完治は難しいと考えられていますが、そうなる前、成長期に適切な上下顎の発育を行うことで、睡眠呼吸障害の発生を防ぐことが可能であると考えられています。適正な顎の発育を根本的に解決する手段を持つものは歯科医師である事から、今後の発展と広まりが大いに期待されるものと考えています。

また、昨今の歯科大学を取り巻く環境は決して良いとは言えない状況であります。今後、これを改善していくためには、1. 優秀な歯科医師を育成すること、2. 国家試験合格率を向上させること、3. 総合的かつ高度な歯科医療を実践することにあると思います。それには歯科医学教育の向上と、付属病院機能の充実が大切であると考えます。幸いにして、水道橋病院は、多くの優れた紹介医、仲間をめぐまれております。今後は先生方とますますの連携強化に努め、歯科医療界の発展に微力ながら貢献できるよう努めますのでどうかよろしくご指導の程お願い致します。

第8回東京歯科大学外科的矯正治療勉強会を開催

矯正歯科 小坂竜也

平成23年7月21日(木)、東京歯科大学水道橋病院血脇記念ホールにて東京歯科大学外科的矯正勉強会を開催しました。本学3病院の口腔外科・矯正歯科が中心となり開催して参りました本勉強会も回を重ねること8回目を迎えることができました。これも偏に、毎回ご

参加いただいております皆様のおかげと衷心より感謝申し上げます。今回は「口唇・口蓋裂の治療について」をテーマに、東京歯科大学千葉病院口腔外科、矯正歯科から口唇裂・口蓋裂治療を専門としている3名による講演を行いました。

まず、千葉病院口腔外科の内山健志教授が「口唇裂・口蓋裂の総論とチーム医療（とくに矯正歯科との）」と題し、口唇口蓋裂患者の外科的治療シークエンスについて、多くの視覚素材を用いた講演を行いました。次いで、千葉病院矯正歯科の坂本輝雄講師が、「口唇裂・口蓋裂における矯正医の役割」と題し、骨延長を応用した顎裂閉鎖症例について矯正歯科医の立場から唇顎口蓋裂症例に対する最新の治療見解について講演しました。さらに千葉病院口腔外科の須賀賢一郎講師が、「唇顎口蓋裂患者における顎矯正手術の問題点と手術の勘どころ—Le Fort I型骨切り術と顎間骨整位術について—」と題し、唇顎口蓋裂症例の外科的上顎骨離断による前方移動時の手技や配慮について臨床例を交えより具体的な講演を行いました。

唇顎口蓋裂症例は上顎骨の成長不全に起因する重篤な下顎前突傾向を呈するため、最終的には外科的矯正治療の適応となることが少なくありません。しかしながら、上顎骨の不連続性、血管走行異常、軟組織ボリュームの欠落等、解剖学的構造異常に加え、構音、咀嚼、嚥下などの機能的問題や患者心理への配慮まで、通常の外科的矯正治療以上に専門的知識と経験が必要とされます。ご参加頂いた100名以上の先生方とも活発な議論がなされ、今後の臨床発展に大いに寄与するものと考えております。

次回は平成24年1月12日(木)17:30よりTDCビル13階にて開催予定です。奮ってご参加いただきますようお願い申し上げます。



内山健志教授による講演

歯科医療従事者のための聴覚障害者への対応法研修会 一歯の手話 in 東京一

障害者歯科 大多和由美

平成 23 年 5 月 29 日 (日), TDC ビル 13 階教室にて「歯科医療従事者のための聴覚障害者への対応法研修会」を, 東京歯科大学水道橋病院障害者歯科, 大阪大学歯学部付属病院障害者歯科治療部, 大阪府歯科用語手話作成普及委員会の主催で開催しました。この研修会は, 聴覚障害者が医療機関を受診時に感じている困難や, 医療者も聴覚障害者と接する際の不安を少しでも解消することを目的としています。当日はあいにくの大雨の中, 歯科衛生士, 歯科医師, 学生, 介護福祉士, 看護師など約 80 名の方々のご出席をいただき, 活気のある会となりました。

今回の研修会は, 聴覚障害者による歯科受診についての講義と基礎的な手話表現の実技, 歯科医療現場での手話表現の実技の 3 部構成としました。研修後のアンケートから, 「聴覚障害者の人々の考えを知るよい機会だった」, 「具体的に困る事がわかり, 診療時や日常生活で気をつける点を教えていただけで良かった」, 「『手話は生きる権利 (当たり前生きるために)』が強く心に響いた」などの意見が寄せられました。基礎的な手話表現の実技については, 「手話の動きの意味も含めて教えてくださったので, 分かりやすかった」, 「初めての為, 学ぶことが多く, ついていけなかったが, 講師の先生の表情が豊かで楽しく勉強できた」などでした。また歯科医療現場での手話表現の実技については, 「実際に患者さんとの対話や表現の仕方などいろいろ学べてとてもよかった」, 「歯科に特化したものなのでとても助かる」などでした。さらに「今後, 定期的にあると良い」, 「聴覚障害者も積極的に歯科受診し歯科医院側のスタッフに勉強させて頂きたい」などの意見も寄せられました。今後も継続した研修会を企画していく所存です。今後ともよろしく願い申し上げます。



平成 23 年度東京都エイズ診療従事者臨床研修開催

障害者歯科 大多和由美

水道橋病院では, 東京都福祉保健局から委託を受け, 都内の歯科医療従事者向けにエイズに関する実践的な知識・技術の習得を目的に研修会を開催しております。平成 11 年度から始まったこの研修会は都内の 3 大学病院で行っており, 当院では「基礎コース」, 東京医科大学歯学部付属病院では「標準コース」, 東京医科大学病院では「実践コース」で各々年に 2 回, 定員 6 名と少人数で行われています。今年度も 11 月 7 日 (月), 8 日 (火) に開催し, 実習以外の講義は, 本院の臨床研修歯科医も受講しました。

研修は, 池田正一臨床教授をはじめ, 水道橋病院のスタッフが講義・実習を担当しました。また, 根岸昌功先生 (ねぎし内科診療所院長) を講師にお迎えし, 「エイズ診療の基礎知識」として, 専門医の立場から貴重な講義をいただきました。その他, スタンダード・プリコーションの理念および具体的な取り組み, 感染症者の歯科治療における注意点, HIV/AIDS の口腔症状, HIV 症例呈示等の講義を行いました。実習は, 手洗いおよび含漱の評価, CCR (クリーンケアルーム) において感染予防対策の実習および HIV 感染者の治療見学を行いました。

研修後の受講者のアンケートでは, 「今までの HIV に対する印象が大きく変化しました」 「病気に対する知識はもちろんのこと, 実際の診療を見学することで, とても身近なものに感じることができました」 「とても良い内容なので, もっと多くの方々にも受講してもらいたいと思います」といったお声をいただきました。

なお, 今年度第 2 回研修会は 1 月 23 日 (月), 24 日 (火) にも開催予定ですが, 既に募集は終了しております。来年度も引き続き開催の予定ですので, ご質問等ありましたら地域医療連携室 (renkeish@tdc.ac.jp) までお問合せ下さい。



池田正一臨床教授の講義

総合歯科・歯科技工室・口腔インプラント科合同勉強会

口腔インプラント科 松崎文頼

平素より、インプラント科への診療のご依頼を賜り、心より感謝を申し上げます。口腔インプラント科では、平成23年10月25日(火)に総合歯科ならびに歯科技工室との合同で、最新のインプラント上部構造に関する勉強会を開催いたしましたのでご報告いたします。

先進のCAD/CAM技術の進歩は著しく、従来、問題とされていた適合精度という点は解消されてきており、臨床に応用される頻度が高まりつつあります。一方では、患者さんからの審美的な要求の高度化、金属の高騰など、我々が日々直面している問題も変化してきております。そこで、今回、多種多様なインプラント体への適用に対応したオープンな次世代CAD/CAMカスタムメイドストラクチャー「Implant Supra Structure-ISUS (アイサス)」について、株式会社三金ラボラトリーの杉田学さんにお越しいただき、同システムについてご解説を頂きました。本システムにおいては、「補綴重視のインプラントストラクチャー製作」を基本概念として、最先端のCAD/CAM技術により上部構造体の自由設計と製作が可能であるとのことでした。現在、上部構造作製が可能なインプラントシステムは200種類を超えており、複数のシステムが混在している症例にも対応可能であるとのことでした。講演の後半には、実際のインプラントボーンアンカーブリッジやインプラントオーバーデンチャーの症例も織り交ぜご説明頂きました。また、多種多様な作製された上部構造体もお持ち頂き、実際に手にとって高い適合性を体感させて頂きました。このたびの勉強会で取り上げられたシステムをはじめとするCAD/CAMによる技工物は、従来の鋳造によるインプラント上部構造体の製作における、鋳造収縮による不適合や鋳造欠陥による強度不足などによる長期的な安定性への不安に対し期待が持てるものに進歩してきていることを実感できる内容でした。

会には、院内のみならず院外からも20名を超える多数の歯科医師、歯科技工士のご参加をいただき、講演後



も活発な質疑応答が予定時間を越えて行われ、盛況な会となりました。今後も、院内外を問わず、皆様にご参加頂ける勉強会を企画し、様々な情報発信をしていけるよう努力して参ります。今後ともよろしくお願いいたします。

症例報告会のお知らせ

平成24年度の水道橋病院症例報告会は5月17日(木)18時頃より東京歯科大学水道橋病院13階大教室にて開催する予定です。

まだテーマは決まっておりませんが、皆様の明日の臨床に役立つ内容となるよう検討中です。4月中旬までにはお知らせをいたしますので、予め予定いただけますようよろしくお願いいたします。

年末年始の診療について

年末は12月28日(水)まで平常に診療いたします。年始は1月5日(木)より診療開始です。なお休診中は、本院へ通院中の患者さまに対してのみの緊急オンコール態勢となりますので、皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。

東京歯科大学水道橋病院 直通電話番号(各科受付)一覧	
総合歯科	03-5275-1721~2
口腔インプラント科	03-5275-1760
小児歯科	03-5275-1723
障がい者歯科	03-5275-1723
矯正歯科	03-5275-1724
口腔外科	03-5275-1725
歯科麻酔科	03-5275-1851
眼科	03-5275-1856
内科	03-5275-1926
放射線科	03-5275-1953
FAX(各科共通)	03-3262-3420

水道橋病院 診療案内

初診受付	平日、土曜とも 午前9時から午前11時
診療時間	平日 午前9時から午後5時 土曜 午前9時から午後12時
休診日	第2土曜、日曜、祝日、 本学創立記念日(2月12日)、年末年始

水道橋畔発編集委員

編集委員長 片田英憲

編集委員 大多和由美、高野正行、古澤成博、山下秀一郎、仁科牧子、関根秀志、辻野啓一郎、鈴木福代、上島文江、小林友忠、高木直人、藤倉隆行